

情報ボックス

前回の「始点と終点の理解」とその教材について、少し深掘りして紹介したいと思います。

「始点と終点の理解からつながる力や芽生える力」は、自ら教材にはたらきかけることによって「因果関係の理解（＝自分の行為とその結果との因果的な関連に気づきはじめること）」や「活動の決まりごとの理解」につながることができます。教材の例を以下に示します。

輪抜き、スライディングブロック＝運動感覚的理解と視覚的理解の教材



L字型のポールに入った輪を抜く。左右、手前、奥など方向を変えることで、距離感が変わり、視覚や動作で調整する必要がある。また、輪の大きさを変えることで、難易度を調整できる。



レールに沿って動かすことで、意図的に水平方向の動きをする教材。視覚的により捉えやすいように土台を黒く、ハンドルを白く塗ってある。始点と終点の理解とともに、目と手の協応動作につながるための教材。

テーブルボール＝運動感覚的理解と聴覚的理解の教材



机を叩けば触覚と固有感覚に入力され、同時に叩いた音を出すために、机を叩くという行為が行われる。こうした触れたり、叩いたりすると音が出る、あるいは、簡単なスイッチを押すと、音が出るなどの因果関係がわかるようになる。

卓上ベル＝聴覚的理解を用いて活動の始まりや終わりをつくる



○子どもが好きな活動の前に、毎回同じ音を鳴らすことで、音と活動を結びつける。

・音を鳴らして子どもの表出を数秒待った後、活動に移る。待っている間に子どもの表出がなくても、好きな活動を行う。

※音がすると本人にとって有益なことが起こるという意識付けを行い、音と活動を結び付けられるようにする。

「始点と終点の理解」につながる教材は、運動感覚的理解・視覚的理解・聴覚的理解 に分けることができますが、これらが複数の要素を兼ねている場合があります。児童生徒の持っている感覚の特性、例えば得意な感覚を活用したり、苦手な感覚を使う力を伸ばしたりなど、目的に応じて教材を選ぶことが重要です。